

13. 初期臨床研修プログラム

(アレルギー科)

二年次研修医受け入れプログラムの概要

病院施設番号： 032298 臨床研修病院の名称： 独立行政法人国立病院機構福岡病院

臨床研修病院群番号：030690101 臨床研修病院群名： 福岡大学臨床研修病院群

1. 研修プログラムの名称	福岡大学臨床研修病院卒後臨床研修プログラム
2. 研修を行う分野	選択 (アレルギー科)
3. 研修期間	3か月
4. 一研修期間中の受け入れ可能人数	1～2 人
5. 研修プログラムの特色	<p>当院内科は、呼吸器科、アレルギー科、心療内科、リウマチ膠原病科の専門病院である。したがって、アレルギー疾患および呼吸器と関連する領域の疾患に対する基本研修科目を履修し、臨床医としての基本的な姿勢と診療能力を会得することができる。特に気管支喘息（含慢性咳嗽）は、年間 1000 名以上の初診患者があり、これらの疾患に関しては、多くの症例を診ることで豊富な臨床経験を積むことができる。</p> <p>また最近、成人の食物アレルギー、FDEIA（食物依存性運動誘発アナフィラキシー）、OAS（口腔アレルギー症候群）や薬物アレルギー・過敏症などの疾患が増加し、季節性が強く、花粉症、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎などの増悪時期に受診者が多い傾向である。また少数であるが職業アレルギー疾患が見られており、気管支喘息の発症原因として特定できる場合がある。</p> <p>アレルギー科は皮膚科、耳鼻科の医師と連携し、お互いの一般臨床の知識を同時に習得でき、充実した研修が可能である。</p>
6. 臨床研修の目標の概要	<p>アレルギー疾患の概念と病態および免疫学を勉強し、呼吸器科（呼吸器・アレルギー科）、耳鼻咽喉科、皮膚科、リウマチ・膠原病科（アレルギー・膠原病科）と強く連動していることを認識する。</p> <p>気管支喘息の病態生理を理解し、発生時の治療法、慢性喘息の管理、吸入療法およびピークフローメーターを用いた管理などを実施研修する。疾患治療のガイドラインが普及しており、ガイドラインの標準知識を習得しながら独自の臨床研究を進めることが可能である。</p>

	<p>耳鼻科、皮膚科と連携し、症状が呼吸器のみでなく多臓器同時に起こる可能性があり、総合して治療を行う必要性を理解する。慢性じんましん、喘息とアレルギー性鼻炎（含花粉症）・慢性副鼻腔炎、アレルギー性肉芽腫・血管炎など多彩で皮膚科・耳鼻科、膠原病科領域の疾患とアレルギー内科の連携で充実した診療が可能になっている。</p> <p>さらにアレルギー科特有の検査、治療を見学する。</p> <p>アスピリン喘息・不耐症の診断、食物アレルギーの診断と治療、食物依存性運動誘発アナフィラキシーの診断と治療を総合的に行い、研修時、実際の症例がない場合は担当医師が講義する。</p> <p>研修手技</p> <p>呼吸機能検査、気道過敏性検査（アストグラフ法、アセチルコリン吸入標準法）、呼気NO</p> <p>誘発痰検査</p> <p>皮膚テスト（プリックテスト、皮内反応）</p>
備考	<p>月一回、合同カンファの開催（約 30 分の短い時間を利用して有意義な聴講時間としている）</p> <p>2 か月に 1 回程度の割合で臨床研究部が気管支喘息に関する勉強会が開催する。</p> <p>臨床研究部長レッスン：現在アレルギー・呼吸器に関する書物（ガイドライン、教科書）などの勉強会を 30 分/週に行っている。</p> <p>年 1 回の院外有料研修を推奨（相模原アレルギー講習会など）。</p> <p>学会活動推奨。</p> <p>各種研究会出席推奨。</p>

(アレルギー科)

二年次研修医受け入れプログラムの概要

病院施設番号： 032298 臨床研修病院の名称： 独立行政法人国立病院機構福岡病院
臨床研修病院群番号： 030690101 臨床研修病院群名： 福岡大学臨床研修病院群

1. 研修プログラムの名称	福岡大学臨床研修病院卒後臨床研修プログラム
2. 研修を行う分野	地域保健・医療（アレルギー科）
3. 研修期間	1 か月
4. 一研修期間中の 受け入れ可能人数	2 人
5. 研修プログラムの特色	<p>当院内科は、呼吸器科、アレルギー科、心療内科、リウマチ膠原病科の専門病院である。したがって、アレルギー疾患および呼吸器と関連する領域の疾患に対する基本研修科目を履修し、臨床医としての基本的な姿勢と診療能力を会得することができる。特に気管支喘息（含慢性咳嗽）は、年間約 3000 名の外来受診があり、これらの疾患に関しては、多くの症例を診ることで豊富な臨床経験を積むことができる。</p> <p>また最近、成人の食物アレルギー、FDEIA（食物依存性運動誘発アナフィラキシー）、OAS（口腔アレルギー症候群）や薬物アレルギー・過敏症などの疾患が増加し、季節性が強く、花粉症、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎などの増悪時期に受診者が多い傾向である。また少数であるが職業アレルギー疾患が見られており、気管支喘息の発症原因として特定できる場合がある。</p> <p>アレルギー科は皮膚科、耳鼻科の医師と連携し、お互いの一般臨床の知識を同時に習得でき、充実した研修が可能である。</p>
6. 臨床研修の目標の概要	<p>アレルギー疾患の概念と病態および免疫学を習得し、呼吸器科（呼吸器・アレルギー科）、耳鼻咽喉科、皮膚科、リウマチ・膠原病科（アレルギー・膠原病科）と強く連動していることを認識する。</p> <p>気管支喘息の病態生理を理解し、発生時の治療法、慢性喘息の管理、吸入療法およびピークフローメーターを用いた</p>

	<p>管理などの実施状況を研修する。</p> <p>耳鼻科、皮膚科と連携し、症状が呼吸器のみでなく多臓器同時に起こる可能性があり、総合して治療を行う必要性を理解する。慢性じんましん、喘息とアレルギー性鼻炎（含花粉症）・慢性副鼻腔炎、アレルギー性肉芽腫・血管炎など多彩で皮膚科・耳鼻科、膠原病科領域の疾患とアレルギー内科の連携で充実した診療が可能になっている。</p> <p>さらにアレルギー科特有の検査、治療を見学する。</p> <p>アスピリン喘息・不耐症の診断、食物アレルギーの診断と治療、食物依存性運動誘発アナフィラキシーの診断と治療について担当医師から講義を受ける。</p> <p>研修手技</p> <p style="padding-left: 2em;">呼吸機能検査、気道過敏性検査（アストグラフ法、アセチルコリン吸入標準法）、呼気NO</p> <p style="padding-left: 2em;">誘発痰検査</p> <p style="padding-left: 2em;">皮膚テスト（プリックテスト、皮内反応）</p>
備考	<p>月一回、合同カンファの開催（約 30 分の短い時間を利用して有意義な聴講時間としている）</p> <p>2 か月に 1 回程度の割合で臨床研究部が気管支喘息に関する勉強会が開催する。</p> <p>臨床研究部長レッスン：現在アレルギー・呼吸器に関する書物（ガイドライン、教科書）などの勉強会を 30 分週に行っている。</p> <p>各種研究会出席推奨。</p>